

## 平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査書

(1) 取組名	里山再生よりみち大学			
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 おぢや元気プロジェクト	(3) 対象地域	新潟県小千谷市「上片貝地区」・川口町「田麦山地区」「木沢地区」	
(4) 代表団体名	—	(5) 推薦団体名	新潟県小千谷市・川口町	
(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	「よりみち大学」運営システム検討		
	<b>実施主体</b>	おぢや元気プロジェクト		
	<b>実施内容、実施結果</b>	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施内容：ワークショップ形式により、「よりみち大学」の運営システムの検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力学識者、有識者との合意形成</li> <li>・年間カリキュラム計画</li> <li>・参加者誘致活動計画</li> <li>・民泊ルール</li> </ul> </li> <li>●実施期間：平成20年8月～9月</li> <li>●取組の目的：「よりみち大学」を取り組むねらいについて、地域住民を含め共通の認識をもち、実施のための具体的な運営システムを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>①有識者（臼井氏（富士通総研）、家田氏（東京大学）等）からの意見聴取を実施（8月5日開校式）</li> <li>②初動メンバーによる全体計画（スケジュール、年間計画等）検討（8月）</li> <li>③地域住民を含む実行委員会組織設立による運営システム検討（現在まで6回開催）</li> <li>④今年度廃校になった校舎の利活用計画について検討</li> </ol> </li> <li>●取組の結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立的」「継続的」な運営を図る共有認識の基、運営システム構築ができた。</li> <li>・また、議論、実行を重ねつつ、常にフォローアップしながら運営システムの改善を図る体制ができた。（自主運営時の予算を想定した民泊の試行、地元住民ができる講義の検討など）</li> <li>・廃校利用の拡大を図るための施設整備に係る費用の確保は、継続課題となった。</li> </ul> </li> </ul>	
	<b>取組②</b>	「よりみち大学」受講者・参加者誘致活動		
	<b>実施主体</b>	おぢや元気プロジェクト		
<b>実施内容、実施結果</b>	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●取組目的 運営計画における参加者誘致活動計画に基づき、本年度モデル講座モニターの誘致活動を実施する。</li> <li>●取組内容 よりみち大学趣意書の作成、誘致活動、モニター募集</li> <li>●実施期間 平成20年9月～10月</li> <li>●実施地域 大都市、長岡市・新潟市等の地方都市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>①よりみち大学の趣意を明確にし、趣意書ならびにチラシ（3000部）を作成（9月～10月）</li> <li>②モデル講座モニターの誘致活動を展開（東京・新潟県内でのチラシ配布・設置（道の駅や新潟県物産館やアウトドアショップなど30箇所、インターネット上での情報公開4ヶ所モニター適正者への協力要請等</li> </ol> </li> <li>●取組の結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回モデル講座の民泊体験モニターとして25名の方に参加いただいた（首都圏7名、新潟市4名、長岡市4名、その他10名）。また、第2回講座に合わせ、モニターを増やす努力を行っている。</li> <li>・自立的な継続を図るためには、モニター、開催講座、受講者を効率的に集める方策を検討し、展開する重要性が課題が明らかとなった。</li> </ul> </li> </ul>		
<b>取組③</b>	「よりみち大学」開設講座検討・モデル講座の実行			
<b>実施主体</b>	おぢや元気プロジェクト			
<b>実施内容、実施結果</b>	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●取組目的 将来の本格的な講座展開に向け、試行的にモデル講座を実行し、今後の取組みの参考とする。</li> <li>●取組内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月及び2月の合計2回のモデル講座の準備・実行（受講者100名を想定）</li> <li>・想定した7コースのうちの3コース/1回の実施</li> <li>・受講者を含めた意見交換ならびに受講者アンケートの実施</li> </ul> </li> <li>●実施期間 平成20年10月～2月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「よりみち大学」開校式等（8月4日、5日、6日）145名（廃校校舎内に宿泊50名2泊3日）</li> <li>・「よりみち大学」ワークショップ ①野尻博氏講演会（9月12日）100名</li> <li>・第1回モデル講座（公開講座含む 11月22日、23日）200名</li> <li>・第2回モデル講座（H21年2月7日、8日）100名見込</li> <li>・地域復興交流会「よりみち大学」ワークショップ（11月1日）100名</li> <li>・第1回モデル講座にて参加者の意見交換を実施。また、受講者とホストファミリーにアンケートを実施。</li> </ul> </li> <li>●取組の結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座での講師と参加者を交えた活発な意見効果、民泊者アンケートなどにより、住民の地域活性化への意識変化が生まれ、また各活動の着実な実行と成果（交流人口・民泊者の増加）による自信が芽生え、これにより地域の人による地域に根付いた運営システムが確立された。</li> <li>・講演いただいた有識者からは今後も支援していくとの激励を受け、また、モニターからも「また民泊したい」との多くの回答を得た。</li> </ul> </li> </ul>		

<p><b>取組④</b> 実施主体</p>	<p>「よりみち大学」里山暮らし参加システム検討</p>									
<p>実施内容、 実施結果</p>	<p>おぢや元気プロジェクト 当初提案により予定していた計画</p> <p>●取組目的 モデル地域内(川口町田麦山地区、小千谷市上片貝地区)農地と一部農園を使って、少しお洒落な「田舎暮らし」に参加してもらうシステムを検討する。</p> <p>●取組内容 ・関係者調整会議を実施しての、里山暮らし体験システム等の検討 ※具体の菜園づくり等は、来年度以降に実施する。</p> <p>●実施期間 平成20年10月～2月</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>●実施内容 ①2回の講座でのアンケート調査を踏まえ、地域協力者を含め検討し議論展開 ②人と自然とのバランスがとれた暮らし、環境・食の安全、ゆとりある時間などをテーマにした、「魅力ある田舎暮らし」への参加システムを検討予定。</p> <p>●取組の結果 ・田舎暮らしに対する「暮らしにくい」「きつい」「汚い」などといったマイナスイメージの払拭、少子高齢、過疎化、若者の農業離れ、嫁不足の解消などの視点から田舎暮らし参加システムを検討中。 ・現在、検討の最終段階として、来年度以降実施可能な具体的なメニューについて、議論を重ねている。</p>								
<p>(7)実施体制</p>	<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <p>●初動メンバー(取組①、取組②) 以下の3団体の中で、有識者の意見聴取を踏まえ、全体計画の検討および参加者誘致活動を実施 おぢや元気プロジェクト/田麦山自然塾/飯山線友の会</p> <p>●よりみち大学実行委員会(取組①、取組③) 初動メンバーに加え、以下の地元活動団体および地元住民の協力を得て設立。カリキュラム等の検討ならびに、モデル講座の運営・準備を実施。 田麦山地区協議会/いきいき田麦山/川口町地域復興支援センター/田麦山地区住民</p> <p>●里山暮らし参加システム検討会(仮)(取組④) よりみち大学実行委員会をベースに、検討会の設置を予定。</p> <p>●学識関係 全体計画・実行委員会運営等：丸山暉彦(長岡技術科学大学教授) 第1回モデル講座講師：C.W.ニコル、安田陽一(日本大学教授) 第2回モデル講座講師：現在調整中 アドバイス：臼井純子(富士通総研)、家田仁(東京大学教授)、鎌田豊成(前長岡造形大学学長)ほか</p> <p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>●取組効果 ・地元の地域おこし団体と共に実行委員会組織を立ち上げ地元住民の積極的な協力を得られたことにより、具現性のある年間計画・カリキュラムの構築、円滑なモデル講座の実施が可能となった。 ・組織構築には、中間支援団体である「田麦山自然塾」の協力が大きかった。中でも「いきいき田麦山」が中心となり議論展開を行い、体験講座の充実が図れ、また地元協力者との連絡調整も担当し、計画通りモデル講座を実施することができた。 ・さらに第1回モデル講座の取組効果を踏まえ、当初計画になかった地区全体の組織である「田麦山協議会」が加わり、地区全体の意識統一が図れ、民泊協力者の拡大、多様な活動の展開が図れることとなった。 ・また、取組①、取組③にあたっては、東京大学と長岡技術科学大学の合同ゼミをよりみち大学のコーディネイトで行い、有識者の意見を聞き、ワークショップを重ねながら運営システムの検討を重ねた。 ・これらの取り組みを重ねることにより、年配の方々から「元気が出た、私たちがまだまだ出来ることがある、やれる勇気が湧いてきました」等、多くの意見が出され、「住民運動」としての取り組みに発展してきている。</p> <p>●反省点および今後の展望 ・スタートの段階では、一部の住民の協力が中心であったために、よりみち大学がなかなか認知されずに地域内の取り組みに対する協力にも温度差が見られた。2回目の講座で田麦山地区の協議会の協力が得られることになり、認知度は上がってきたが、自立的・継続的な地域活性化に結びつけるためには、さらに住民自身が主体的に動く体制を確立することが2年間の課題である。 ・また、この取り組み成果を長期的な視野で発展・継続させていくために、次代を担う子供たちの参加を画策していく。</p>									
<p>(8)取組により得られた成果</p>	<p>○成果1→ 地域内集落の「観光宿泊者数(民泊)」の増加</p> <table border="1" data-bbox="389 1225 2022 1321"> <tr> <td>H19</td> <td>H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td>対象地区内:29名(田麦山地区0名)</td> <td>対象地区内:100名</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>・民泊が計115名あり、目標を達成した。(①+②) ①【直接効果】モデル講座の実施により、昨年度まで民泊実績のなかった田麦山地区において、55名程度の民泊者実績を得られた。(第1回講座終了時25名+第2回講座予定30名) ②【波及効果】「よりみち大学」の取り組みにより観光交流人口が増加した中から木沢地区でも民泊の取組があり今年度は60名民泊を受け入れた。</p> <p>○成果2→ 「よりみち大学」の取り組みによる新たな交流人口の増加(当初予定外)</p> <table border="1" data-bbox="389 1321 2022 1417"> <tr> <td>H19</td> <td>H20(目標)</td> </tr> <tr> <td>交流人口数 0名</td> <td>当初設定していない項目</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>「よりみち大学」の取り組みによって新たに交流人口が645人に増加した。 ①廃校利用での「よりみち大学」開校による旧田麦山小学校を利用した交流人口数 545名 (内訳は(6)取組③に記載) ②廃校以外の地域内開催での交流人口 100名 (地域復興交流会「よりみち大学」ワークショップ(11月1日) 100名)</p>		H19	H20(当初予定していた目標)	対象地区内:29名(田麦山地区0名)	対象地区内:100名	H19	H20(目標)	交流人口数 0名	当初設定していない項目
H19	H20(当初予定していた目標)									
対象地区内:29名(田麦山地区0名)	対象地区内:100名									
H19	H20(目標)									
交流人口数 0名	当初設定していない項目									

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>●成果 ・対象地域には目立った観光資源がないため、交流人口増加による地域活性化という目的意識がなかった。しかし、よりみち大学のモデル講座の受入れ等により観光資源はないと思っていた地区住民達が外から来た受講生の率直な感想(「田麦山の自然に癒され、地域の人との温かなふれあい、田麦山の山菜をふんだんに使った料理に感動した!」)という声を聞いて、改めて自分たちの住んでいる地域に対する誇りと、里山の生活文化・環境そのものが魅力ある観光資源になり得るとの認識が地域内で得られた。 ・民泊を受け入れた方々を中心に、交流人口の増加が地域の活性化に繋がるという認識が広まった。 ・受講生(民泊者)は「よりみち大学」参加により都会では得られない数々の体験に「また来たい」という声も多かった。 ・それにより、地域の中で、交流人口の増加による地域の活性化のための自信と目的意識が芽生え、次年度以降の本格的な実施に向けた素地ができた。</p> <p>●反省点 ・システム運営の検討を始めてから、1回目の講座開催までの期間が短く、思うように誘致活動やアピール活動を行う事が出来なかった。 ・講座の時間準備が少なく、一部の住民に負担がかかった面があるので、地域の各種団体と連携して、多くの方に関わってもらう事で、継続するためには負担を軽くする必要がある。 ・アンケート結果より、参加者の93%が取組みを評価しており、地域への愛着の芽生えや継続的な交流を望むなどの意見が出されている。そのため、さらに交流人口、地域のファンを増やしていくためにも、「受け入れ体制の強化」「カリキュラムの充実」ならびに、「受講生誘致の戦略的な実施」が必要であったと考える。 ・受け入れ体制の強化ならびに廃校を利活用した交流拠点構築のため、最低限必要な施設改修(シャワー等)の実施が必要である。</p> <p>●今後の展望と改善点 ・受講生誘致について、首都圏を含め、戦略的に実施展開を図る。また、企業、大学、その他学校、団体等を誘致することで、安定的、継続的、多様な交流を図る。 ・そのために、たとえば研究交流、観光交流、体験交流等の目的別交流プランの拡充を検討する。 ・地域のモチベーションアップ、ならびに里山の生活・環境の魅力をより打ち出していくために、地域の人材を掘り起こし、地域の生活に根ざした新たなカリキュラムの構築を検討。</p>	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1. 運営システムの充実(平成21年度) ・賛同講師の拡大 ・カリキュラムの充実 ・運営組織(受入体制)の充実 ・資金調達及び運用方法の検討</p> <p>2. モデル講座の充実と継続実施(平成21年度) ・コース数の増加 ・連携協力者の拡大</p> <p>3. 里山の暮らし体験システムの充実(平成21年度) ・継続展開 ・展開地域の拡大と調査 ・連携協力者の拡大</p> <p>4. 地方自治体との連携アプローチ(平成21年度) ・民泊の充実による体験観光・グリーンツーリズム・エコツーリズムとの連携 ・廃校施設の手当て</p> <p>5. 情報発信の検討(平成21年度) ・プロモーション ・PR手法</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>1. 本格的な事業展開に向けた運営システムの確立(平成21年度～実施主体:NPO法人 おぢや元気プロジェクト) ●定期的な講座の開催に向け、以下の点についてワークショップ(実行委員会)の拡充を図り、継続的な議論展開(月1回程度) ●賛同講師の拡大、民泊受入れ者の拡充方法 ●カリキュラムの充実(地域の人材を掘り起こし、地域の生活に根ざした新たなカリキュラム、中越地震の被災体験を活かした災害対応のカリキュラム等の構築) ●研究交流、観光交流、体験交流等の目的別交流プランの策定 ●支援組織となる「よりみち大学サポーターズクラブ」の設立、運営検討 (活用を希望する制度)地方の元気再生事業の継続支援(想定金額:300万円)</p> <p>2. モデル講座の充実と継続実施(平成21年度～実施主体:NPO法人 おぢや元気プロジェクト) ●運営システムの確立に向け、引き続きモデル講座の実施(年2回) ●モデル講座の実施により、以下の点の向上を目指す ・連携協力者の拡大、地域の主体性 ・交流人口の増加、地域のファンを増やし都市と地域の意識連携の醸成 (活用を希望する制度)なし(参加料等を基に自主財源による実施に移行)</p> <p>3. 里山暮らし体験システムの充実(平成21年度～実施主体:NPO法人 おぢや元気プロジェクト) ●本年度検討事項の具体展開 ●活動実績構築による、展開地域、連携協力者の拡大 ●活動展開のフィードバックによる里山の暮らし体験システムの充実 ●おしゃれな里山の散策をする為の調査など (活用を希望する制度)地方の元気再生事業の継続支援(想定金額:450万円)</p> <p>4. 地方自治体との連携アプローチ(平成21年度～実施主体:NPO法人 おぢや元気プロジェクト) ●観光協会等との連携強化により、より戦略的・広範囲なPRを実施 (活用を希望する制度)地方の元気再生事業の継続支援(想定金額:300万円) ●人が集まって活動するための必要最低限の廃校の修繕・備品購入 (活用を希望する制度)公共施設改修に伴う地方自治体の支援(自治体と調整中)</p> <p>5. 戦略的なPR手法の検討と情報発信(平成21年度～実施主体:NPO法人 おぢや元気プロジェクト) ●受講生誘致について、首都圏を含め、企業・団体などを含め戦略的に実施展開 ・よりみち大学「パネル展示・活動報告・カリキュラム提案など」を開催し積極的なPRを実施する(新潟県内、首都圏等)。 ・ホームページの構築等 (活用を希望する制度)地方の元気再生事業の継続支援(想定金額:500万円)</p>

◆主な実施取組の内容◆

〈取組み目的〉

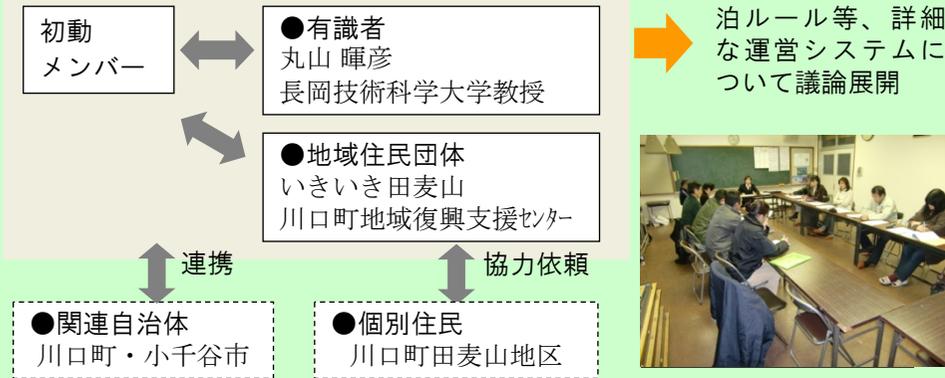
- ・現存する里山独自の資源を活かし、都市に住む人々との交流を図り、身の丈に合った地域づくり・地域の活性化を目指す。
- ・「小さな取組み」を続け、里山の持続的な再生を目指すとともに、集落の維持に対して地域で考えるきっかけとなる。

◆地域住民主導の議論・活動の展開(運営システムの構築)

以下のような考えを基に組織構築(実行委員会)を行い、議論展開ならびに活動展開を図った。

- 継続的な展開を目指し、将来的には地域住民が主導になることを目指す
- 初動時は有志により議論展開しながら、徐々に連携範囲を拡大していく

●実行委員会(参加者 15名)



【実施効果】

- ・具現性のある運営システムの構築
- ・地域活性化に向けた自信と目的意識が芽生え、次年度以降の本格的な実施に向けた素地が構築

◆「よりみち大学」モデル講座の実施

将来の本格的な講座展開に向け、11月及び2月の合計2回のモデル講座を実施。

●第1回講座(平成20年11月22日、23日)



環境に関する講義



地元住民との交流会・民泊

【連携協力者】

いきいき田麦山  
 田麦山地区個別住民  
 講師:C.W.ニコル氏  
 安田陽一氏  
 (日本大学教授)

【参加者】

モニター:17名  
 民泊体験:24名  
 安田陽一氏講演:80名  
 C.W.ニコル講演:120名

【アンケート結果】

・講義は有効だった 86%  
 ・また民泊したい 93%



里山の暮らし体験



環境に関する講義

【実施効果】

- ・交流人口の増加が集落維持に対して有効であることを地元住民が把握
- ・地元協力者から受け入れ体制に対し様々な意見が出され、本格的な講座展開に向けた運用システムが充実

◆取組実施による成果・今後の展開◆

- よりみち大学のモデル講座、民泊の受入れ等による外部関係者との関わりから、里山的生活・環境そのものが魅力的な資源になり得るとの認識が地域内で得られた。
- 平成21年度以降は、「受入れ体制の強化」「カリキュラムの充実」ならびに「受講生誘致の戦略的な実施」により、安定的、継続的、多様な交流の推進を図っていく。

里山の資源を活かした持続可能な地域の活性化へ